

# 田舎暮らしを楽しむ

(15)

佐藤 彰啓



大きめの食卓は多目的に利用できて便利

リタイア後に田舎暮らしをするための「田園住宅」は、いつもは夫婦二人で週末に子どもや孫たちがやってくる想定した住まいである。つまり二人の快適な住まいであるとともに、訪れる人を快く受け入れる家でもある。設計のポイントをいくつか挙げてみよう。

▼日常生活は一階で完結

終(ついで)のすみかともなる住宅には、高齢化への対応が必要である。日常生活が一階で完結することが望ましい。そのためには、リビング、ダイニング、キッチン、寝室の基本スペースを一階に

## 訪問者にも快適な設計に

### 家の手当て(3)

もってくる。住まいの安全に配慮し、段差のない設計にすること。寝室はふとんよりベッドの方が健康的だ。寝起きが楽だし、湿気や冷気がたまりにくい。寝室とトイレは接近させて、冬寒い場所を通らずに利用できるようにする。

ただし高齢化対策にこだわるあまり、初めから楽ばかりする住宅も考えもの。普段の生活では足腰を鍛えるような間取りにするのも手だろう。たとえば当初は寝室を二階にし、一階のそのスペースを

趣味の部屋にする方法もある。

▼食堂と居間にはゆとりを

日ごろは夫婦二人の食卓であるが、来客の人数によってフレキシブル(臨機応変)に対応できるように、ダイニングとリビングはワンルームにする。食卓のテーブルも大きめにすれば、食事以外にも趣味などで多面的に利用できる。キッチンは会話がしやすい対面式がいい。

### ▼二階には天窓も

「またおばあちゃんちに行きたいな」と、孫たちに思わせるような夢のある家にしたい。それには、二階を非日常的な別荘感覚の空間にするのがいい。梁(はり)をそのまま生かし屋根裏部屋のような雰囲気にしたたり、天窓を設けて満天の星空が眺められる夢空間をつくったりする。来客のないときは、趣味の部屋として使えばいい。

田園住宅というと、ゆったりとしたスペースを思い浮かべるが、ただ広い空間は落ち着かない。暮らしにあった機能性も考えた住まいにしたい。

(ふるさと情報館代表)